

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791800032		
法人名	有限会社 くばの里		
事業所名	グループホーム くばの里ハウス		
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196番地147		
自己評価作成日	令和4年 10月 25日	評価結果市町村受理日	令和5年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kagokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791800032-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 11月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・金武町の町木が名前の由来となっており、同法人のデイサービスやグループホームなどと協力しあい、地域に愛され、根差した事業所を目指し、家庭的な雰囲気を入居者が明るく楽しく過ごせるように支援していきます。住み慣れた地域、環境で近隣の方に事業所への理解していただけるように行事などへの参加の声かけを行い、交流を図っています。</p> <p>・個人の意思を尊重し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、一人一人に寄り添い柔軟に対応しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の中にあり、敷地内には3つのグループホームが設置されている。地域との交流にも積極的に関わり、コロナ禍で途絶えていた保育園との交流や青年会のエイサー等が再開されている。利用者のカジマヤーのお祝いの際はオープンカーで地域を回り、地域にお祝いの饅頭を配り、地域全体で祝福している。職員の意見を取り入れ、調理専任職員の配置、夜勤体制の見直しを今年8月から実施し、働きやすい職場環境を整えている。法人で看護師を雇用し、3つのグループホームの服薬管理や介護職員への医療に関する支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を取り入れ作ったわかりやすい言葉で、「お手伝いをさせてもらっている。」という意識を持つよう、毎朝の申し送り時に皆で復唱している。	職員参加で作られた理念の「個人の意思を尊重する、みんなが笑顔で楽しい生活が送れるようお手伝いします。」の実践に努めている。理念はフロア内に掲示し、申し送り時に理念の読み上げを行い、「お手伝いします」の意識を確認している。新任職員には管理者が理念を印刷して渡し説明している。毎月発行している「たより」に理念を記載し、利用者や家族にも周知が図られている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近くの保育園で行事や催し物があるときや、近所の方たちに夜間駐車場を提供している。 ・新型コロナのため自粛していたが、少しずつだが保育園や青年会との交流を再開している。	地域との関わりは地域の情報を収集して行事に参加し、区の総会がある場合は利用者と一緒に参加するなどしている。事業所の駐車場を夜間は地域の方へ開放している。地域の方から野菜の差し入れがある。利用者のかじまや一祝いでオープンカーで地域を回り、地域に饅頭を配布している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて特別なことは出来ていないが、認知症の家族や介護に困っている方の相談にのっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回、奇数月に行い、会議録など家族にも送付している。利用者、地域の方、行政機関、家族の参加をお願いし、多方面から意見をいただいているが、今年は新型コロナの拡大防止のため、会議を開催せず、利用者家族、行政機関、地域の方々に送付していたが、9月から開催した。	運営推進会議は、コロナ禍のため、文書の発送のみでの開催となっている。議事録は委員及び全家族にも発送されている。今年度第3回からは委員の更新もあり、対面での開催となっている。委員の構成は利用者、家族、行政職員、地域代表、民生委員、知見者となっている。運営状況や事故報告、外部評価受審等を報告している。身体拘束適正化委員会は、今年10月から運営推進会議のメンバーで開催している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・職員不足から地域会議などに参加できていないが、認定更新手続きや新規入居者の情報交換などのため窓口を訪ねたりしている。	行政担当からは運営推進会議の参加時や、必要時には電話等で相談し、情報提供や助言を得ている。5回目のワクチン接種の調整を行政と行っている。町からは感染予防対策としてマスクや消毒液、抗原キットの配布がある。生活保護世帯の利用者に関する福祉事務所との連絡調整が行われている。町からは地域ケア会議の案内が送付されてくる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や勝手口などにセンサーや鈴を取り付け、人の出入りがわかるようにし、外に出たがっている場合、散歩やドライブなどなるべく自由に好きな所に行けるようにしている。	身体拘束等適正化のための指針・マニュアルを整備し、年2回の研修(オンライン研修)や身体拘束検討委員会を3か月毎に実施している。身体拘束をしないケアについて、マニュアルに明記し、家族等には入居時にリスクについて説明している。事業所内玄関や居室の施錠は無く、玄関は呼び鈴が設置されている。夜間のみ居室にセンサーを設置している利用者がいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・どんな行為が虐待にあたるのか、虐待について職員同士の指摘や話し合いなど、その都度検討している。	高齢者虐待防止について、職員は勉強会や研修等で理解を深めるとともにケアを振り返っている。利用者に対する不適切なケアとして、命令口調、大声等気になる時は管理者が注意を促す等、虐待防止に取り組んでいる。虐待防止に関する指針は作成中である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し勉強しているが、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や契約時に、本人や家族に説明を行い、署名捺印をもらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付書と回収箱を置いているが、面会時や病院受付時に直接管理者や職員に言うてもらったことが多い。	利用者の意見は日頃の会話の中から把握に努めている。「あの人が私をにらんでいる」と訴えている利用者については席替えをして改善を図っている。「お茶ばかりは飲めない」との要望にコーヒー、牛乳、ジュース等種類を準備して対応している。看取りに入った利用者の家族からの希望で、約1か月間居室での面会を実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員ミーティングを行い、発言する機会がある。それ以外にも普段から職員が発言し易い環境になるよう心掛けている。管理者は必要に応じ管理者・役員会議の議題にあげ皆で検討している。	職員意見についてはミーティングの中で聞いている。職員の要望で電子レンジを1台追加購入し、ホール横に設置したところ、作業効率がよくなったとの声が出ている。ベッドテーブルの購入もされている。専任の調理担当を採用している。16時間の夜勤を前夜、後夜勤に分けて今年8月から実施している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 代表者が頻繁に施設を訪れ、職員とコミュニケーションを取っている。草刈りなど、職員手の回らないことも率先してやってくれる。職員を増員し、ゆとりあるシフトにしたいが、募集をかけてもなかなか応募が無い。 年1回(夜勤者は2回)、健康診断の実施。 職員の出勤日や時間帯、休みや有給などは、皆の意見を聞きながら概ね希望通りになっている。 	職員は年休等の取得や夜勤体制の改善について調整を行い、休みやすい環境が整備されている。子育て中の職員は、勤務時間の変更等の配慮がされている。職員の健康診断も実施している。法人所属の看護師による健康管理や服薬管理が行われ、急変時等の対応が行われている。ハラスメント防止に関する指針等の未作成、および研修が未実施となっている。	ハラスメントに関する指針等を作成し、職員への研修の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 頻繁に施設を訪れ、利用者はもちろん、職員にも目を配り、アドバイスをしたり、管理者に報告などし改善に向けてアドバイスをしている。 外部研修にかかる費用は会社が負担してくれる。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県グループホーム協会に加入し、管理者会議や研修へ参加しているが、相互訪問までは至らず、電話での相談や情報交換などが多い。 法人内の施設同士の交流で相談や意見交換、励まし合いなど行っている。 		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、ケアマネや相談員からの情報も取り入れながら本人の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、安心して入居出来るように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問し、ケアマネや相談員からの情報も取り入れながら本人の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、安心して入居出来るように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問し、ケアマネや相談員からの情報も取り入れながら本人の様子を把握し、事前にホームの見学をしてもらい、安心して入居出来るように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、調理の下ごしらえや、おやつ作り、季節の行事の飾り作りなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員と家族の関係づくりのため、面会時などに情報交換を行っている。 ・夕食時の食事介助や排泄介助を家族の方が来所して手伝ってくれる。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族や馴染みの方の面会時、他利用者や職員との交流を持つことで、もっと訪問しやすい環境になるように支援している。 ・本人様の行きたいところ(買い物や自宅など)に行けるよう対応している。	馴染みの人や場所との関係等はアセスメントで把握している。定期的に面会に訪れる友人と交流を深め、年末には友人宅へ泊りに出かける利用者もいる。出身区の総会に毎年参加して地域の方と交流をしている利用者もいる。近くのスーパーへ職員と一緒に買い物に出かけたり、病院受診の帰りに売店で利用者へのお土産を購入するのを楽しみにしている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の座席を配慮したり、職員の声掛け等で明るい雰囲気作りに気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所後も、病状経過などを家族に確認したり、困ったことや不安なことがあればいつでも相談に乗ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団にとらわれず、個人のペースに合わせた支援を心掛けている。	思いや意向については、アセスメントや日常の会話の中から把握に努めている。新聞のチラシでゴミ箱を作ることを「私の宿題だよ」と言って作業をすることで安心感を保っている利用者もいる。みんなと一緒にする作業が苦手な利用者は、敷地内のくばの種を拾って瓶にいれる作業を支援している。意思表示が困難な場合は表情を読み取る等で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中から読み取ったり、家族の方から情報収集したりしている。また、利用者様同士も近所だったりするので、教えていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態の変化などで本人の有する力などを申し送りなどで情報共有し、支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時や、利用者の状態に変化があった時にはその都度話し合いを行っている。申し送りなどで情報を共有し、対策検討を行い介護計画に反映させている。	チームで作る介護計画とモニタリングについて、計画担当者が利用者や家族等の要望等を聞き取り、介護計画が作成されている。毎月モニタリングが実施されている。介護計画の見直しは、認定更新時や状態に変化があった場合にされている。長期目標は概ね1年、短期目標は6か月となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や介護日誌に記入し、勤務引継ぎ時の申し送りにて情報の共有をはかっている。LINEのグループで情報を共有したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に利用者の状況を報告し、必要な支援を行っている。病院受診や家族との外出の予定など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの感染予防のため、外部からの訪問を制限させていただいている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在宅時からのかかりつけ医を継続させ、往診していただき、受診しないといけない方は、新型コロナウイルス感染防止のため、利用者、病院の先生、家族と相談し、状態の安定している定期薬のみの方の受診を控えている。 ・受診の際、管理者、もしくは職員と一緒に同行し、情報提供して。	受診については、かかりつけ医の継続と訪問診療を利用している利用者がある。他科受診は家族が対応している。体調不良の場合には職員がバイタルチェック表を持参し、病院の受診支援をしている。受診結果は、家族からは口頭で報告を受け、職員は業務日誌や申し送りで情報を共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人で雇用している看護師が最低でも週に1回、それ以外にも必要に応じ訪問してもらい、相談やを指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、可能な限り同行して情報提供を行い、退院時は相談員や家族と連絡を取り合っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携や重度化した場合のことについて確認してはいるが、体調変化時などにも連絡を入れ、家族に確認している。	入居時に「重篤化した場合の対応にかかる指針」や「看取り指針」について本人と家族に説明を行い、「急変時・危篤時の治療及び対応方法(心肺蘇生法)に関する説明と同意書」についても意思確認し、同意を得ている。看護師には、褥瘡のケア方法の指導を受ける等、連携して支援している。職員は「よりよい看取りへの支援」研修をオンライン受講し、研修報告書を提出している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルなどを整備し、対応時の流れを見やすい場所に掲示している。	「急変や事故発生時対応マニュアル」を整備し、緊急連絡網をフローチャートで作成している。事故発生時には、事故報告書を作成し、検討会議を開いて職員ミーティング等で情報を共有している。ヒヤリハットも報告され、事故防止に活かしている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・年2回の消防避難訓練や金武町や県の防災訓練に参加し、避難訓練を実施している。 ・BCPIは作成中。	防災マニュアル(地震・風水・水害・土砂など)が整備され、隣接する3か所のグループホームで昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施している。消防設備点検も行われている。オール電化のため停電時に備え、カセットコンロや懐中電灯、ランタンを常備している。食料品では、米や缶詰、備蓄用ご飯などをローリングストック法で3日間分備蓄している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や接し方などによって自尊心を傷つけたり、排泄支援の時、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に気を付けている。	入浴、排泄介助時の前に「今から〇〇しますよ。」と適切な声の大きさと声かけをしている。使用後のおむつは人目につかないように処理をしている。トイレは引き戸と目隠しのれんを使用し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。個人情報保護方針や利用目的を整備し、写真や画像等の利用も含め、入居時に家族等に説明して同意書を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し説明を行いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、個別支援が出来るように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴の際の衣類は本人に確認している。外出時は職員が寒暖をアドバイスし、本人の好みに装うよう支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	直接の調理は出来ないが、野菜の下ごしらえを職員と一緒にしたり、利用者にとどのように調理したらいいか尋ねながら作ったりしている。最近、庭先に畑を作り、水やりを手伝ってもらい収穫を楽しみにされている。特に決まった献立を作らず、利用者の好みやイベントなどに合わせ調理している。	食事は調理担当職員が三食とも事業所の厨房で調理している。利用者は、食材の下ごしらえや食器洗い、食器・テーブル拭き等の役割を担っている。正月には、お膳に赤い紙を敷いてお祝い用のお箸も準備し、刺身も提供している。コロナ禍で外食の回数が減ったため、3か月に1回ランチバーベキューを楽しんでいる。職員は利用者と同じ食事を時間変更して摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分量を、その都度摂取量を個人記録に記入し、摂取量が少ない方には捕食や水分補給を行っている。 ・水分補給に拒否の強い方には、本人の好む飲み物を用意し、飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、義歯は利用者本人が洗浄後、職員が洗浄する。義歯のない方にも口腔ケアを行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを確認し、トイレを促すことにより、布パンツ対応やパットの使用軽減につなげている。	日中は、全介助の利用者以外は、トイレで排泄できるよう支援している。排泄記録でパターンを把握し、タイミングよく声かけすることで失禁を減らすことにつなげている。夜間は、3人の利用者がポータブルトイレを使用している。トイレには、シャワーが設置されている。便秘対策では、牛乳や乳酸菌飲料などの摂取や水分摂取量を調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分や食事に対応するようにしている。水分量の少ない方にはスポーツドリンクゼリーや、本人の好む飲み物を用意し、水分補給に拒否なく飲めるようにしている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、一人一人の希望に合わせて対応している。	入浴は、週2回のシャワー浴で、同性介助を基本としている。脱衣所は、冷暖房が完備され、脱衣時には肩に大判で薄手のバスタオルをかけ介助している。大好きな美空ひばりやKポップ、民謡、童謡などの曲をスマートフォンで流しながら楽しく入浴している。入浴を拒否する利用者には、服を見せ「着替えましょう」と脱衣所へ案内し、入浴へつなげる場合もある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に定めず、テレビを見たり、雑談したり一人一人に応じている。安眠できるように室温なども一部屋一部屋調整している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握しやすいよう薬の近くに服薬情報を綴ったり、薬の変更や追加があった時には記録に書き、申し送りにて報告している。	服薬時の注意事項や薬の保管や配薬、与薬、服薬後、誤薬発生時の対応までの流れが記載された「服薬マニュアル」が整備されている。職員は、薬を安全に扱うために、食前、食間、食後、何時間おきといったように、薬の服用時間の意味や薬の効能・副作用について学び支援している。現在、誤薬のない安全な服薬支援を継続している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地元の小学校の校歌や童謡を歌ったり、軽作業(畑の水やり、洗濯たたみなど)、散歩、ドライブ等で気分転換になるよう支援を行っている。 ・iPadなどを使い個人にあわせた映画観賞や動画視聴などを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族との外食ランチや行事などで外出する際、送迎したり、急な買い物や帰宅要求にも対応し支援している。	コロナ禍にあっても、利用者の自宅近くやダム、ビーチへのドライブや買い物に出掛けている。重度化した利用者は、昼間に陽が当たる10分間の外気浴や、リフト車で一緒にドライブをして気分転換をしている。2か月に1回、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。旧暦の1日・15日に決まって頭痛がする利用者は、買い物かてらお寺に寄り、ストレス解消を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・区の総会に参加し頂いたお金や、家族からのお小遣いのお金で、本人の欲しいものを買に行ったり、お金を持っているということで安心され、落ちつかれている方がいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 3月13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる人はいないが、いつでもかけたい時に電話をかけたり、ご家族や友人からかかってきた時には、話が出来るように支援している。最近LINEのテレビ電話なども活用している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに合わせた飾りなどし、湿度計、温度計を置き空調などの調節を行い、採光、テレビの音量調節にも配慮している。	居間兼食堂は、大きなテーブルが設置され、「の～まんじゅう」作りやクッキー作りを楽しんでいる。対面式キッチン、利用者の様子を見守ることができ、調理の音や匂いは、家庭的で食欲をそそる環境となっている。玄関入口は、靴の履き替え用ベンチが設置されている。廊下の壁面飾りは、季節に合わせたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、玄関などに椅子などを設置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、自宅のように過ごせるよう使い慣れたものなどを居室に置き、ゆっくり過ごせるようにしている。	居室には、洗面台やベッド、エアコン、木調タンスが備え付けられている。利用者は、お寺の「家庭円満のお札」や日めくりカレンダー、TV、小型冷蔵庫、時計などを持ち込み、塗り絵作品や家族写真を壁に飾り、自分らしい落ち着いた部屋作りをしている。ベッドサイドにはナースコールが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを配置し、利用者が移動しやすく、立ち上がり運動なども出来るようにしている。トイレや浴室なども車椅子や四点歩行器などでも出入り出来るようにしている。		